

—総括表—

<input type="checkbox"/> 地域の現状と今後の方向性	
<p>地域支えあい連絡会で、地域の方より「コロナで活動が止まっている間に、止まっていることが普通になってしまい、活動の再開に対して腰が重い」という情報がありました。5職種で地域の状況を常に共有しながら必要な支援が出来るようにしていきます。 またケアプラザ内でも中止していた事業について、今の状態でも必要であれば開催できる方法を模索し、地域住民にあって良かったと言ってもらえる事業展開をしていきます。</p>	
<input type="checkbox"/> 今年度の重点的な取組	
新規	継続
—具体的な取組内容—	
<input type="checkbox"/>	<p>「これからも住み慣れた釜利谷で安心してくらししていくために一緒に考える会”かまもりやーの”」の継続 ■ 地域住民・事業者や小学校等に参加を呼びかけ、“住みやすい釜利谷”について継続して考えていく。また、かまもりホルダーの周知を継続する。</p>
<input type="checkbox"/>	<p>認知症の正しい理解、予防、介護者への支援の充実 ■ 講演会や認知症サポーター養成講座を継続して開催し、あらゆる世代に認知症についての正しい知識と理解を普及啓発していく。また、釜利谷地域ケアプラザ包括エリア内の認知症キャラバン・メイト連絡会等を通じて支援者を増やしていく。</p>
<input type="checkbox"/>	<p>■ 住みなれた地域に住み続けるため、地域住民による活動の情報リスト「釜利谷みんなの情報リスト」と、お買い物後の配達情報も掲載している「釜利谷みんなのお買いもの情報」の情報更新を行う。</p>
<input type="checkbox"/>	<p>■ エンディングノートの普及活動の工夫 広報紙への掲載、地域のサロンに出向いての周知に加えて、地域ケアプラザで説明会を開催する。</p>
<input type="checkbox"/>	<p>■ 支援者側が感じる課題やニーズにとらわれない視点での新たな教室や講座、情報提供を行い、より多くの方に福祉・保健サービスが提供できるようにしていく。</p>

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

コロナ禍による活動自粛も軽減され、地域の祭礼などの催しやサロンなど活動が再開されましたが、4年間のブランクによって以前の活動を知らず不安を感じている方が多くいらっしゃいました。地域支えあい連絡会などを通じて情報の共有を行ったり地域のサロンにおいてケアプラザ職員と一緒に活動を行うことで地域づくりの再始動に向けた支援ができたと考えています。
 かまもりホルダーについては登録会や説明会を各所で行いました。登録者も増え、生活の中で役立つ話なども入ってきています。
 地域で詐欺被害が多発しているため、詐欺の手口や防止策などについて広報誌やサロンなどでの周知を積み重ね、被害の拡大防止に努めました。
 認知症関連では認知症サポーター養成講座を子どもから大人まで幅広い年齢層向けに開催し、認知症の正しい知識と理解を深める機会をつくり普及啓発に努めました。またキャラバン・メイトからの要望により勉強会を開催し、今後の活動の幅を広げていただける支援をしました。かまもりやサロンでは、サロンを通じて参加者同士のネットワークができ、他の事業への参加に繋がるなど、認知症になっても住みやすい地域づくりに向けて支援者を増やしていくための取り組みを行いました。

区からのコメント

今年度は新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことに伴い各種サロン活動等が再開されましたが、活動が休止の間も含めて丁寧に地域に足を運び、出前講座の開催等をとおして関係性を維持されました。また、活動再開に伴う不安や工夫点等については、支えあい連絡会などの機会を通じて共有が図られ、地域全体としての活動の再開や推進に繋がったと考えます。今後も、各地域へ丁寧に足を運ばれる中で得られた情報をケアプラザ内部で共有し、支援やネットワークの構築に繋げていただきますようお願いいたします。
 地域で生活をする誰もが安心して暮らせるよう、「かまもりホルダー」の周知や登録推進に努められました。また、区内で多発している特殊詐欺についても広報紙や出前講座等で注意喚起を続けられ、地域での草の根レベルの啓発にも繋がっています。今後も高齢化の進行や支援が必要な方の増加が見込まれるため、認知症への理解の促進や支援者のネットワークの構築をより一層進めていただきますようお願いいたします。